

情報連絡員報告を中心とした

県内の中小企業動向

平成28年4月期

情報連絡員50名 回答数50名

全体概要 【前月からの動き】

※下記の数字は情報連絡員からの回答数を表します。
 (「好転(上昇、増加)」、「不変」、「減少(悪化、低下)」の3択回答のうち、「不変」を除く「好転」又は「減少」の回答数)

前月比

- ▶製造業では、売上高において「増加した」業種は5のまま変化なし。「減少した」業種は3から8に増加。
- ▶非製造業では、売上高において「増加した」業種は10から4に減少。「減少した」業種は5から12に増加。
- ▶業界の景況では、「好転した」業種は5から2に減少。「悪化した」業種は9から13に増加。

前年同月比

- ▶製造業では、売上高において「増加した」業種は1から6に増加。「減少した」業種は8のまま変化なし。
- ▶非製造業では、売上高において「増加した」業種は5から8に増加。「減少した」業種は12から13に増加。
- ▶業界の景況では、「好転した」業種は1から4に増加。「悪化した」業種は16から15に減少。

製造業

■しよ油製造

【県内全域】

輸入小麦の政府売渡価格(4月/10月)5銘柄加重平均(税込価格)52,610円/t。7,190円の引き下げとなった。

■漬物製造

【県内全域】

円高傾向にあり、輸入原料の購入コストが下がると期待する。

■酒類製造

【県内全域】

前年比、前月比とも微増。とは言え、全国的には低調が続き、まだ底を打ったとは言えない状況と思われる。

■製材

【木更津】

ロシア船1隻入港。南用材、米材船は入港なし。ロシア材の在庫は増えたが、他は減少傾向。

■印刷

【県内全域】

景況の変化について、4月の県内組合員受注売上は、全体として悪かったようです。ここ数年の現象として、旧年度予算の受注品は何が何でも3月末までに納品するよう求められます。その結果各組員で仕事が溢れかえる状況が見受けられます。その反動で新年度当初は全く稼働しない状況が垣間見えますので、印刷資材はとも動きが鈍く、用紙はコピー用紙の

売上ではほぼ前月に近い売り上げを確保している状況です。

■鉄工

【千葉】

当組合が半期毎に実施している景気動向調査によると、主要指標と目される受注動向、売上高、収益状況、設備操業度等がいずれも2桁以上の企業が悪いと回答しており、各社の業況は低位、横ばい状態での推移が続いているものと見受けられる。

■機械部品製造

【野田】

停滞ムードが続いている。

■機械部品製造

【流山】

全体的に変化はないが、不透明感も強い状況である。

■機械部品製造

【柏】

半導体関連新製品立ち上がりにより稼働率受注額増加。

■金属製品製造

【船橋】

3月後半より、取引先生産台数が減少し、4月に入り、周囲をみても低調感あり。

■採石業

【県内全域】

4月の出荷は大幅にゼロに近い状況で、平成27年度の出荷量を前年並みの30万mと予想したが厳しい状況であろう。港湾整備に伴う石材の需要は秋以降に見込まれるが、需要量が少ないようである。

オリンピックの選手村の嵩上げ事業が今年度予定され、液状化防止の上から砂でなく、ズリの需要が見込まれます。

【土砂採取】 【県内全域】

売上高については、前月比は増加、不変、減少と各社まちまちだが、前年比では減少傾向にある。山砂関係は一部地域を除き低下の一途にあるとの報告が多い。

非製造業

【総合卸売】 【千葉県・東京都】

【電設資材卸】 主な受注先である中小建設業の人手不足による施工減少から、販売数量がやや減っている。

【食肉卸売】 【千葉市他】

酪農家の減少が続いている。

【リサイクル卸】 【千葉市他】

鉄、非鉄は若干持ち直しつつあるが、古紙価格は下落。

【建築材料卸売】 【県内全域】

景況の変化について、明らかに悪くなっている。オリンピック関連のみ突貫工事に備えているが、その他は惨憺たるもの今年度内回復は期待できない。

【自動車解体】 【県内全域】

輸出スクラップ（特にベトナム向）の価格上昇により、国内価格

も急反発。ただ、中国・ベトナム間の政治問題が理由なので、不安定感あり。

【乾物卸売】 【県内全域】

景況の変化は、後退。（海苔不足に起因）業界動向は、概ね終了気配の本年度海苔生産量、4月末日現在、千葉県は対前値比生産量60%、金額72%、全国生産量91%、金額100%。千葉海苔原料不足・価格の高騰で販売には非常に厳しい状況下である。

【卸売】 【茂原】

政府の意向により、株価は下降の傾向により景気の先行きが本当に分かりません。熊本地震災害で世の中が暗くなっています。

【電気機器小売】 【県内全域】

景況の変化について、景気が悪く悲鳴をあげている。日銀、追加緩和見送り、株が下がり政府の景気対策も無く、家電メーカーにも画期的商品は無く行く末が案じられる。

【青果卸売】 【千葉市】

イベントことが多い時期で今年度は天気もよかったせいか売上のままあまの月であった。

【中古車仕入・販売】 【県内全域】

3月～5月頃までは、流通する

中古自動車の多い時期で、業販、仕入が活発な動きではあるようだが、例年並みと感じる。

【小売】 【東金】

景況の変化について、ファッション関連品は、春物が振るわず若干の減少。進学、新社会人向けは、商品が動いた感がある。日用品関連は横ばい状態が続いている。飲食・食品関係は、相変わらず客数減で苦戦をしている。

【小売】 【野田】

景況の変化について、買上客数は前年同月より増えたが、客単価が伸びない。消費者の節約傾向が続いているようだ。

【小売・サービス】 【柏】

景況の変化について、全体的には横ばいで有るが、柏市の商環境が4月下旬にセブン&アイのアリオが開店したことにより大きく変わりつつある。柏駅前商店会始め大型商業施設は疑心暗鬼状態に成っている。

【一般廃棄物処理】 【千葉】

仕事量としては、前月、前年同月と比べると下回っていますが、4月1日より千葉市の条例料金改定（ごみ処理手数料の値上げ）により、契約単価があがっているた

め良い結果と致しました。

【学習塾】 【県内全域】

景況の変化について、新学期が始まったが、生徒の集まり具合は例年通り。

【土木建築サービス】 【県内全域】

景況の変化について、賃上げは勢いを欠き、個人消費が息切れし始め、円高や海外経済の減速を背景に、設備投資も先送りの懸念が強まるなど、足踏みを続けてきた景気のもたつきが目立ってきている。日銀のマイナスイ金利政策の導入効果も、まだ見えていない。

【貨物運送】 【野田】

景況の変化について、燃料費が少しづつ上昇しているが今のところ景況は悪くない。業界の動きについて、ドローンなどを使った宅配システムの試験が行われたり産業用ローンの開発など大きく時代が変わる途中にある。

【輸出入】 【県内全域】

4月の売上は前月比、前年同月比とも横ばい状況であった。

